

がん拠点病院の役割とは？



まず相談！

がんを診断されたら

がん拠点病院とは何か

田川市にある後藤寺の川病院(335床)と、地域がん診療連携拠点病院や地域医療支援病院等の認定を受けている田川地域の基幹病院である。

社会保険田川病院は田川市郡で唯一の「地域がん診療連携拠点病院」(以下、がん拠点病院と略)として厚生労働省より指定を受けており、「①専門的ながん医療の提供」「②地域におけるがん診療の連携協力体制の構築」「③がん患者さんに対する相談支援及び情報提供」の3つの役割を担っている。本号では、その知られざるがん拠点病院の実態を紹介する。最前線でごん患者さんと共に、がん治療に携わる医師やスタッフからがん拠点病院の役割や、がん診療や検診の重要性を感じて頂くのが本号のテーマだ。そこで、まずは、当院の佐野智美緩和ケア内科部長に、入職1年目の伊藤編集部長が突撃取材を敢行した。

(編集部)

医師が解説。

がんの素朴な疑問

【がんになるのはなぜ？】

(伊藤) どうしてがんになるんですか？

(佐野) どうしてだと思っ

(伊藤) 環境とかですか？

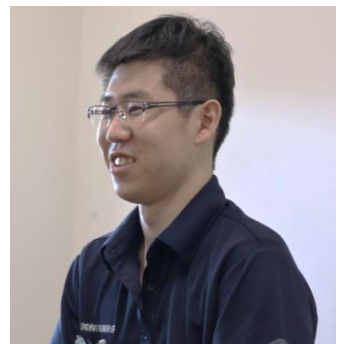
食生活とか？

(佐野) そうですね。生活習慣だけでなく、さまざまな要因が考えられています。現在、日本人では、タバコを吸う人だけでなく、周囲でタバコの煙を吸う人への影響や、お酒の飲みすぎ、食事の偏り(例えば、塩分をとりすぎる・果物や野菜を摂らない・熱すぎるものを飲んだり食べたりするなど)、運動不足、ウイルスや細菌への感染もがんの要因になるとされています。

【がんとは？】

(伊藤) そもそも、がんってなんですか？

(佐野) 人間のからだは、約60億個の「細胞」からできていて、その細胞はコピーして新しく生まれ変わっています。元の細胞と同じものをつくるために、細胞の設計図である遺伝子が情報を伝えていきます。がんは、細胞の設計図である遺伝子が傷つくことによって起こる病気です。傷ついた遺伝子からできて、勝手に



総務課 伊藤編集部長

基準を満たしています。拠点病院には種類があり、県の中心になるのが県拠点病院、地区の中心になるのが地域拠点病院、筑豊地区ではがんの拠点は社保田川病院と飯塚病院の二つのみです。ウリの一つは、無料のがん相談窓口があり当院の患者さんじゃなくても気軽に相談できることです。また、その相談は電話でも対応しているのでも、いつでもどこでも気になったらまずは相談してください。

がん拠点病院の条件とは

拠点病院には、厳しい指定要件が定められており、その項目数は約三百項目。例えば、がんの診療体制の基本である、「手術」「抗がん剤治療」「放射線治療」の体制。その他にも診療実績、常勤の病理診断医、放射線治療医、緩和ケア医など、医師の在籍、資格要件が求められている。これらに加えて、がん診療における専門資格を持つ看護師(緩和ケア認定看護師等)や医療チームを整えること等の患者さん目線に立ち質を確保するための要件が定められている。その中で、『がん相談支援センター』の設置も義務付けられている。無料でも相談できる。がんのよろず相談所だ。



【がん相談支援センター相談員・看護師 長尾聖子 談】

【編集部員の感想】

がんについて詳しく知ることができたのと同時に、いつ自分ががんになるかもわからないという不安もあります。それでも、それを気軽に相談できる施設があることや、さまざまな治療方法があること、がんは地元で治療ができるということがわかり、安心しました。このことを地域の皆さんにもっと知っていただきたいです。

「がん相談支援センター」とは？

現在、福岡県での死亡原因は、一位「がん」、二位「心疾患」、三位「老衰」の順となっている。また、がんといってもさまざまな種類があり、その中で死亡原因となるがんの内訳をみると、男女共に



緩和ケア内科部長 佐野 智美

「質の高いがん医療」を提供することを目指して、厚生労働大臣が指定しています。専門的ながん医療を提供する、がん診療の地域連携協力体制をつくり・繋がる、がん患者さん・ご家族に対する相談支援および情報提供などについて、国が定めた

「がん相談員に聞く」

乳腺外科高橋医師が語るがん治療



外科部長 乳腺外科専門医
高橋 龍司

*1分子標的治療：がん遺伝子により産生されるタンパク質などを標的として、その働きを抑えたり、「がん周囲の環境を整える因子」を標的にして、がん細胞が増殖しにくい環境を整える治療法。
*2抗HER2療法：HER2タンパクを狙って攻撃するトラスツズマブなどの分子標的薬を用いる治療法。

乳がん治療の事例



上の図では、当院での乳がん治療の流れをイメージして頂きやすいように、エピソード形式で流れを紹介する。乳がんの治療は健診から始まり「手術」のみならず、放射線治療、抗がん剤治療やホルモン療法等、さまざまな治療方法がある

この事例の患者さんは五十代の方で、定期的に受けている健康診断でがんの疑いがあることが判明その後、当院の乳腺外来を受診された。無症状かつしこりはまだ小さい状態であることから乳腺外来で検査を行いがんを早期発見することができた。

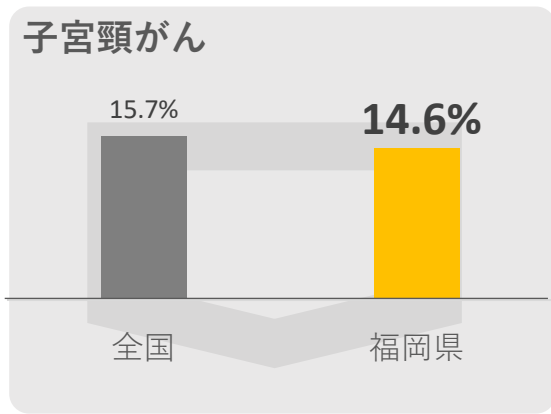
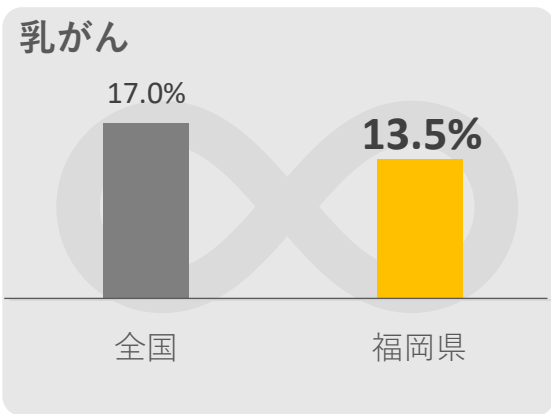
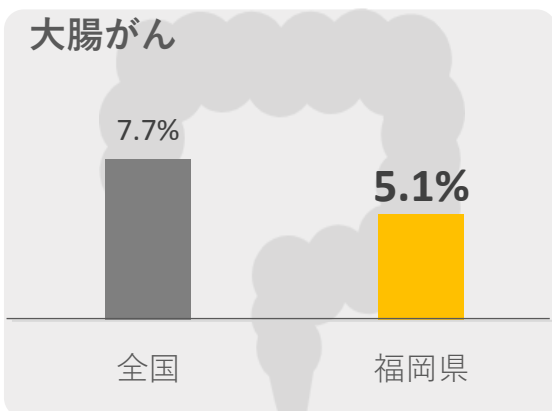
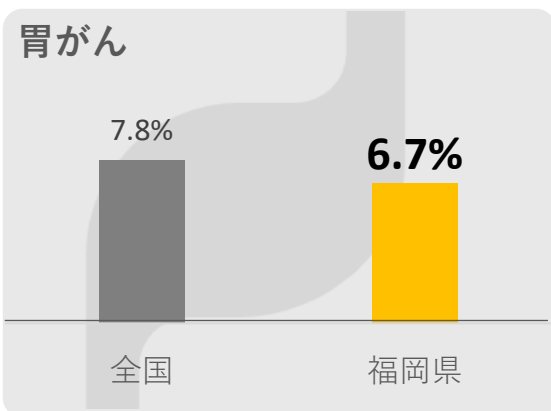
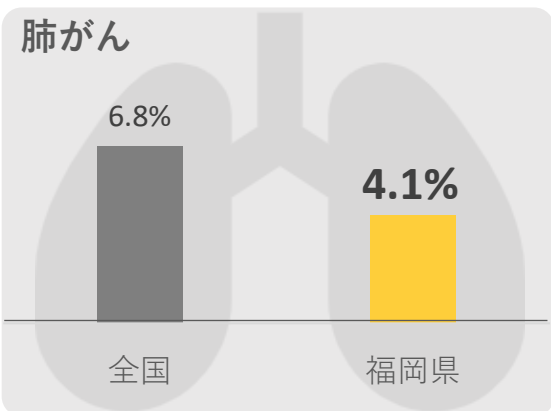
この患者さんの場

合は、最初に手術を行
い、その傷の状態の
回復を待ち放射線
治療（リニアック）
を開始した。

放射線治療は、週五日（月・金）で約一ヶ月間実施。その後は、抗がん剤点滴治療（化学療法）を数ヶ月行なった。しかし、その後、副作用のひとつである皮膚症状が現れはじめたため、抗がん剤点滴治療からホルモン療法（内服薬）へ切り替えて治療を継続することになった。

乳がんは寛解や完治までに五、十年という期間を要するため、現在も治療継続中であるが、体調、治療効果共に良好で現在は自宅でお孫さんやご家族と元気に過ごされている。

～がん種別検診受診率 福岡県と全国比較～



福岡県と全国のがん検診受診率を比較すると、いずれの項目でも全国平均を下回っている。早期発見・早期治療の観点から県民、市民の皆さんのがん検診受診が望まれるなお、がん検診は、単独でも受診可能で社保田川病院でも乳がん・子宮がん検診に対応。会社員（協会けんぽ等）の方は年齢によって胃力メラなど、対象となる検査が決められている。国民健康保険（自営業の方等）の加入者は、各市町村の集団検診で、その他のがん検診を特定健診に組み合わせ受診することも可能だ。集団検診は、保健センター等で月に数回実施されているため、各市町村に問い合わせて受診して頂きたい。

【健康管理センター
室長 宮原 談】

PR

社会保険田川病院
がん相談支援センター

わたしたちができること

- ① **一人ひとり個別に**がん専門の相談員が丁寧
にサポートいたします
- ② **多職種で連携し**患者さまのお悩みに寄り添
います
- ③ **他院に受診されている方**でもご利用いた
けます
- ④ **がんに関するどんな些細な事でも**お尋ねく
ださい

がんへの不安に寄り添い
毎日を生き生きと
日常生活を送るための
お手伝いをします 



 **0947-44-0463**
(平日 9:00～16:00)

社会保険田川病院
健康管理センター



私たち社会保険田川病院は、地域の皆さまの頼れるライフナビゲーターとして、受診者おひとりお一人に寄り添い、健康をサポートしてまいります。

 **0947-44-0464**
(平日 11:00～16:30)

田川に暮らす人々の笑顔を守りたい—
—この地に根を下ろして七十余年

～当センターの4つの安心～

- I 院内だけでなく「地域」完結型なので安心
- II 専門医による婦人科検診（乳がん・子宮がん）なので安心
- III 保健師によるアフターフォローで安心
- IV 基本検査にプラス！オプションメニューで安心

「ひとちゅう」とは、社保田川病院の経営理念である～人生100年を支える人中心の医療～から来ており、略して“ひとちゅう”。

高度急性期・急性期医療を中心に、回復期、慢性期、在宅に至る幅広い医療を提供。『地域医療支援病院』『開放型病院』『地域がん診療連携拠点病院』『救急告示病院』『臨床研修指定病院（医師・歯科医師）』『福岡県肝疾患専門医療機関』などの指定を受け、職員一同、田川地域の医療を守るために奮闘

社 会 保 険 田 川 病 院
〒826-0023 福岡県田川市上本町10-18
編集：社会保険田川病院広報委員会